

## オペラ／音楽劇研究所

所長 荻野 静男（政治経済学術院 教授）

## 研究活動概要

2021 年度は 4 月および 1 月以外のすべての開催月において、合計 7 回の研究月例会を催すことができた。これは、いまだコロナ禍の終息の見えぬなか、本研究所の研究所員・招聘研究員たちの熱意溢れる研究活動の表れとして高く評価できるものと思われる。今年度は特に研究所員の活躍が顕著で、全 7 回のうち実に 4 回の月例会において発表者の役割を担った。従来招聘研究員による発表が多いのであるが、その点で今年度は異例ともいえる状況を呈した。また多岐にわたる発表テーマは、オペラ・ミュージカル・演劇・文学・音楽・ピアノ演奏・建築物としての歌劇場などに及んでおり、このことはまさに本研究所の特長となる学術横断的研究活動を披露するものといえる。それはまた、ある特定の専門領域に埋没することなく、広い分野を渉猟する研究員たちの多大な努力の成果でもある。発表内容を国別に分類するとドイツ・フランス・イタリア・オランダ・スイス・日本・アメリカなどが挙げられ、オペラのヨーロッパにおける活発な実践とグローバルな伝播とを示すものとなっている。また発表において扱われたオペラ／音楽劇作品を歴史的に見ると、それは 17～21 世紀という長い期間において創作・制作されたものであることがわかる。そして 3 月末に『早稲田オペラ／音楽劇研究』第 3 号が発行され、本研究所の今年度の活動を締め括った。なお例会の出席者数（フロア）が例年に比べ多かったことは、とりわけ発表者ならびに発表テーマが多くの聴衆を惹きつけたことを示すものと思われる。

## 特に有意義と考える活動、成果等

◇題目：オペラとミュージカルの美学：その連続と分断—  
ヴァイル研究の視角から

◇発表者：大田美佐子

◇日時：2022 年 2 月 5 日（土）16：30 - 18：20

◇会場：オンライン開催

◇言語：日本語

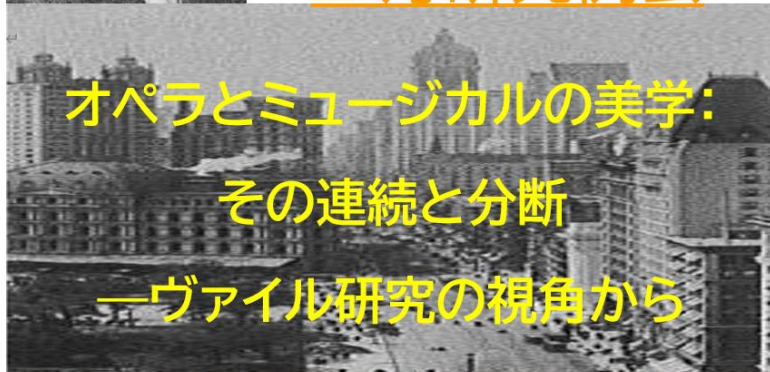
◇概要：クルト・ヴァイル（1900-1950）は、オペラ、教育劇からブロードウェイ・ミュージカルまで、「音楽劇」の作曲家として、様々なタイプの音楽劇を生み出してきた。コロナ状況下においても、様々なオンライン上演が行われ、実験的で社会的な音楽劇の存在感は健在である。ヴァイルの研究史でも上演史においても、亡命前と後の作品の変化から、冷戦構造のなかで「二人のヴァイル論争」が起こったが、現在では研究でも上演においても、ドイツ時代とアメリカ時代の作品における「差異」や「分断」と同時に、その「連続性」に焦点が当てられている。この問題は、「三文オペラ」やブロードウェイ・ミュージカルなどのマージナルな作品の現代での上演を考えるうえでも、作品理解にとっても、まさにアクチュアルな問題ではないだろうか。

本発表では、オペラとミュージカルの美学の連続と分断の問題を、ヴァイル研究の視点から、以下の 3 つの点を中心に検討考察する。

1. 起点としての「二人のヴァイル」論争
2. ヴァイル自身の音楽論におけるオペラとミュージカル
3. ミュージカルとプレヒト理論



# オペラ／音楽劇 研究所 2 月研究例会



## その他の活動、成果等

今年度は都合により4月例会の開催を見合わせた。また2022年1月に再延期されたプロジェクト「オペラとメディア」は、残念ながらまたしても開催不可能となった。しかし、幸いにも以下7回のオンラインによる月例会を開催することができた。

詳細は次のサイトを参照：[オペラ研究会★早稲田大学オペラ／音楽劇研究所連携 - オペラ研究会★早稲田大学オペラ／音楽劇研究所連携 \(jimdo.free.com\)](http://jimdo.free.com)

| 日付         | 発表者名            | 所属機関  | 内容関連国                 | 言語  | 題目                                        |
|------------|-----------------|-------|-----------------------|-----|-------------------------------------------|
| 2021.05.15 | 釘宮 貴子           | 名古屋大学 | オーストリア、日本             | 日本語 | 20世紀初頭のウィーンで作曲された日本を題材としたオペラ・オペレッタに見る日本人像 |
| 2021.06.19 | ブロッソー,<br>シルヴィ  | 早稲田大学 | フランス                  | 日本語 | パリのオペラ座について—19世紀の首都における都市計画、建築、社会的完成      |
| 2021.07.17 | 大崎 さやの          | 東京大学他 | イタリア                  | 日本語 | ゴルドーニ作品に見られる異邦人の表象——東方を舞台とした作品を中心に        |
| 2021.10.09 | 江口 大輔           | 早稲田大学 | ドイツ                   | 日本語 | ヴィーラント／シュヴァイツァー『アルツェステ』における「真実らしさ」        |
| 2021.11.06 | ニューエル,<br>アントニー | 早稲田大学 | フランス                  | 英語  | 82のキーによるオペラ：19世紀前半のオペラとピアノの融合             |
| 2021.12.04 | 荻野 静男           | 早稲田大学 | スイス、オランダ、ドイツ、アメリカ、カナダ | 日本語 | 現代の新しいオペラ／音楽劇と新演出                         |
| 2022.02.05 | 大田 美佐子          | 神戸大学  | ドイツ、アメリカ              | 日本語 | オペラとミュージカルの美学：その連続と分断—ヴァイル研究の視角から         |

・外部資金として科研費も数件取得しており、継続した研究を行うことができた。

■ 研究所雑誌『早稲田オペラ／音楽劇研究』第3号

・掲載場所：早稲田大学リポジトリ [早稲田大学リポジトリ \(nii.ac.jp\)](http://nii.ac.jp)



\* なお本誌については、創刊号から紙媒体の雑誌も発行しています。